

「生涯健康脳住宅研究所」の開設について

— 脳の育成、活性と住まいや暮らし方の関係性について研究・発信 —

株式会社住環境研究所

2016年8月2日

積水化学工業株式会社住宅カンパニー（プレジデント：関口俊一）の調査研究機関である株式会社住環境研究所（所長：倉片恒治、千代田区神田須田町1-1）は8月5日（金）に『生涯健康脳住宅研究所』を開設します。東北大学加齢医学研究所などの研究機関と連携し、脳の育成、活性と住まいや暮らし方の関係性について調査、研究を進めるとともに、当社ホームページ上に専用コンテンツ（<http://www.jkk-info.jp/brain/> 8月5日オープン予定）を設け、情報発信も行います。

『生涯健康脳』とは、東北大学加齢医学研究所 瀧靖之教授が提唱している概念で、脳の活性化や機能維持のための重要な4つの項目「睡眠」「運動」「コミュニケーション」「食事（調理）」から健康な生活をより長期化させるという考え方です。高齢期の住まいについていち早く研究、発信してきた住環境研究所では、この考え方に着目し、『生涯健康脳住宅』として具体化するための研究を進めることとしました。

『生涯健康脳住宅研究所』では具体的に

1. 4つの配慮 「睡眠」「運動」「コミュニケーション」「食事（調理）」への配慮
2. 3つの機能 ①上記4項目を保持・活性化させる「建築的な仕様・仕掛け」
②上記4項目からの「生活のセンシング（生活の見える化・予兆）」
③生活の見える化データを元にした「サービス・アドバイスの提供」

の観点から、住まいや暮らしの中での問題点や課題を明らかにし、解決・提案することをねらいとしています。また、4つの配慮である「睡眠」「運動」「コミュニケーション」「食事（調理）」それぞれの単語から1文字ずつを抜粋して、新たに「話^わ食^{しょく}動^{どう}眠^{みん}」というコンセプトスローガンを作成いたしました。健康な脳のためには、4つの配慮がいかに住まいにおいて重要であるかを広く世に訴求していきます。

なお積水化学工業(株)住宅カンパニーの住生活サービスグループでは、今年6月、一般市場向けにセントラルスポーツ(株)と「健康寿命を延ばすためのリフォーム」の協業を開始しています。これは、4つの配慮のうちの『運動』を日常生活に気軽に取り入れるリフォームで健康寿命の延伸を狙ったものです。将来的には『生涯健康脳研究所』の研究成果を新築住宅、リフォーム、サービス付き高齢者住宅などに展開していく考えです。

『生涯健康脳住宅研究所』の概要

名 称：『生涯健康脳住宅研究所』
所 長：嘉規 智織（住環境研究所 上席研究員）
所 在 地：東京都千代田区神田須田町1-1
U R L：<http://www.jkk-info.jp/brain/>
開 設 日：2016年8月5日（金）
設 立 目 的：『生涯健康脳住宅』の概念形成及びその具体化の研究・情報発信
協業研究先：東北大学加齢医学研究所（瀧靖之 機能画像医学研究分野教授）
江戸川大学睡眠研究所（福田一彦 社会学部 人間心理学科教授）

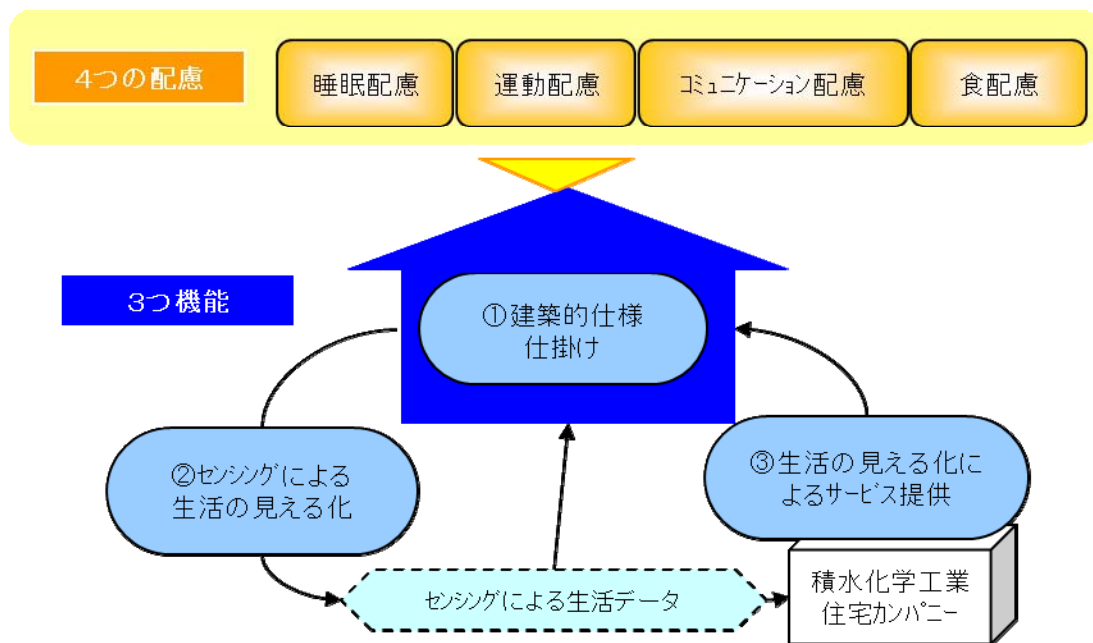
【生涯健康脳住宅研究所開設の経緯】

積水化学工業(株)住宅カンパニーでは、1994年に「加齢配慮住宅研究所」を設立し、高齢化社会における住宅問題の研究や、それに基づく解決策を盛り込んだ商品企画を手掛けてきました。ただ、高齢化の進展により住まいの課題の重点が「対応から予防へ」と変化していることから、新たな概念による新たな体制での研究が必要との考えに至り、「加齢配慮住宅研究所」の研究に加え、『生涯健康脳住宅研究所』を新設することとしました。

【生涯健康脳住宅の定義】

“脳の活性化・機能保持”のための重要な4つの項目「睡眠、運動、コミュニケーション、食事（調理）」あり、この項目に配慮し、これらを実現するための3つの機能をもつ住まいを「生涯健康脳住宅」と呼ぶ。

【生涯健康脳住宅研究イメージ】



※センシングによる生活の見える化とは、温度湿度、照度、電気使用量などを計測し、住環境の状況や利用の有無などにより生活状況を明らかにすること。

この件に関するお問い合わせは下記までお願いします
住環境研究所 嘉規（かき）TEL. 03-3256-7571
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-1 神田須田町スクエアビル 8F